

幼保小の

名前は
はまっこ かけるん

令和7年10月8日 Vol.33

かけ橋プログラム だより

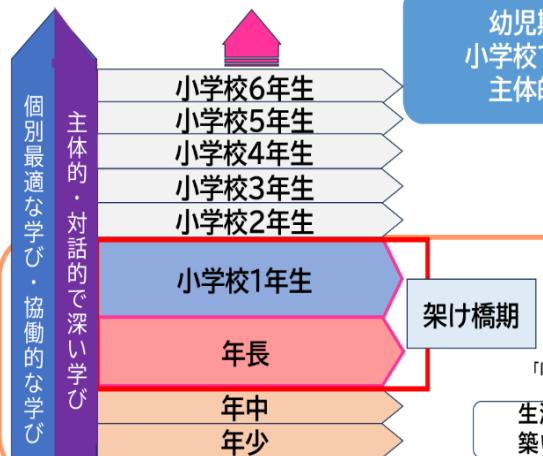
このお便りは、横浜市の「かけ橋プログラム」の一環として発行しています。
かけ橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

みなさん、こんにちは。今回は、「かけ橋期」について生活科の教育課程で小学校の先生方に伝えたことと、外部講師の嶋野道弘先生（元文科省主任視学官）のお話から、**かけ橋期で大切にしたいことを**、Vol.33と34でお伝えします。園・小学校双方で共有し、理解を深め、子どもたちの日々の保育や授業に生かしていきましょう。

小学校生活
科教育課程で
伝えたこと

かけ橋期とは

横浜市



幼稚園で育まれた学びの芽を
小学校で自覚化できる学びにし、
主体的な学び手を育っていく



「はじめの100か月の
育ちビジョン」
こども家庭庁より

生涯にわたるウェルビーイングを
築いていくうえで特に大事な時期

「はじめの100か月の 育ちビジョン」

人生の初めの大変な100か月。100か月とはおなかの中に命が授かった時から1年生の終わりまでの期間です。100か月の重要性は各国の研究による科学的根拠に基づいています。子どもを真ん中に、子どもの育ちを切れ目なく支えるビジョンです。詳しくは下のQRコードで！こども家庭庁作成の紹介動画をご覧ください。

・ 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？（幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料）文部科学省

・かけ橋期キーワードは

嶋野先生
の講演より

横浜市

安心

発揮

自立

- ◆園はいろんな遊びができるよ
- ◆園でやったよ
- ◆学校は楽しいよ

- ◆やってみるよ
- ◆それならできるよ
- ◆園でもやってたよ

- ◆自分で考えたよ
- ◆自分でやってみるよ

このキーワードを**具体にする**ことが大事
具体におろして考え、それを実行してみることが大切



安心し、自己発揮
している姿。自分
でやってみる自立
の姿が見えます

